

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	16703000274
法人名	医療法人 喜生会
事業所名	グループホームぬくもり
所在地	富山県射水市朴木245番地
自己評価作成日	令和4年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人の理念である人間が人間を、人間らしく看るという当たり前のことを誠実に実行している。 ・医療法人が運営母体で、同敷地、クリニックと、老健が併設しており体調変化等にすぐ対応できる。 ・入居者のペースに合わせての行動や、体調管理ができています。 ・経験豊富で長く勤務している職員が多く年齢は十代から六十代と幅広く活躍しております。
--

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和4年10月25日	評価結果市町村受理日	令和4年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人の理念の中でも「入居者の人格を尊重する」ことに特に意識を向けたケアに日々取り組んでいる。敷地内には同一法人のクリニックや施設があり、医療職やリハビリ職との連携の中でのアイデアもケアの中に反映させている。管理者中心のチーム内は風通しが良く、それは働きやすいという職員の言葉にも表れており、結果、長続きする職員ばかりだとのこと。管理者は「とにかく即やってみよう」を心がけており、まず実践し、うまくいかなければすぐ見直していく姿勢もまた、魅力のひとつとなっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を掲示している。 管理者と職員はその理念を共有し毎月1日、朝礼時に唱えており、その人らしい暮らしが実践できるように取り組んでいる。	開所時に作られたという4つの理念がタイムカード前に貼られ、毎日確認できるようになっている。また、月に一度、朝礼時に職員で唱和し、周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者は利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し事業所自体で地域の一員として努力している。	コロナ禍の影響で、ボランティアや実習の受け入れなど、今まで行なってきたつながり方ができなくなっているが、地域の祭りのテレビ放映を録画し見てもらうなどで工夫をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者はコロナ禍以前はご家族や地域の方々と交流する場を設けていた。認知症の理解や支援方法を実践し、地域の方が入居された時にも生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実施されていないが以前は、隔月1回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告・施設の問題等を話し合い、参加者の意見をサービスの向上に活かしている。	コロナ禍であり、書面での開催となっている。資料の書式をわかりやすい内容のものに変更し、市役所に持参し、フィードバックをもらっている。	市役所以外の委員へも開催案内や資料を渡すなどし、意見をもらったりと、情報交換ができる有効な場として活用されることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、市町村の連携を密にするよう努めている。	市とはメールや電話で日頃よりやりとりを行なっている。コロナワクチンや研修案内などの情報を得たり、必要な時は電話で問い合わせたりして連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、市町村の連携を密にするよう努めている。現在外部研修には行っていない為、管理者、職員で勉強会を開き、身体拘束について考え理解を深めている。 併設施設の駐車場が目の前に有る為、玄関の施錠をしている。	身体拘束は行っておらず、管理者から、なぜしてはいけないかを常に発信している。また、指針、委員会も整備されている。虐待防止の外部研修に参加したスタッフもあり、報告書を通じて内容の周知も行なった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍で現在外部研修は行っていないが、過去に受講した資料をもとに制度についての勉強会を開き知識向上につなげ職員間で共有し防止に努めている。 入居者様の人格を尊重し生活の質の向上を職員一同めざしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の入居者様の状況を理解し管理者、職員で勉強会を開き、制度についての知識を身につけカンファレンスを実施し援助している。 ご家族がいない場合や疎遠な方は成年後見制度が活用できるよう視野に入れて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、重要事項説明書からわかりやすく契約者に説明している。 入居に必要な荷物は書面を渡し、その場で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族からの意見、要望があれば、メモに残し改善、解決に向けて職員で話し合いの場を設けて適切な運営に反映させている。	面会時に家族からの意見を聞くことが多く、内容は必ずメモに残し、日誌に貼ったり申し送りノートに記入したりして職員間で周知を行なっている。 意見内容によっては、主任会議や業務連絡会議で対応を決定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員からの意見、提案を毎朝のミーティングに参加し聴いている。 必要時は、個別面接を行いなんでも話せる雰囲気にも努めている。 運営に必要な意見、提案が反映された時は職員間で情報共有している。	ケアや業務についての意見は毎朝のミーティングを通じて挙がる事が多く、申し送りノートで共有を図っている。プライベートな相談は管理者に直接相談があり、個別の対応を行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員が向上心を持って働けるように日頃から、職員の個性ややりがいを把握するように努めている。 また、良い環境で就業できる為に、環境整備なども工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は数名の入居者様の担当を受け持っており実践しながら、ケア向上に取り組んでいる。 又、管理者は適に個々に合った研修を勧め職員を育てる取り組みに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、外部研修(web)に参加し情報交換を行い職員間で情報を共有しサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話し好きな方が多く意志や要望等職員は常にしっかりと傾聴し安心感を持って生活して頂いている。又、会話の他にスキンシップをとったり、コミュニケーション作りにも気を配り、個々への信頼関係を築き住み良い居住空間を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で家族の思いや要望を聞いて必要事項を書き留めておき情報収集している。又、面会時や電話等で常に連絡を取り合える。双方間でより良い関係を維持できるよう配慮し日々努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で本人や家族の思いや要望を聞いて必要事項を書き留めておき支援体制を整えている。流れが一連化にならないよう援助しながら「その時」の支援を見極めてその都度より良い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で職員と一緒にタオル干しや洗濯物畳み、食器拭き等家事役割をして頂いている。自分の為～誰かの為にの精神が芽生えお互いに感謝の気持ちを持ち、お手伝いされている様子が伺える。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状では、感染リスクが高くなるため短い間でガラス越しの面会になるが、声が聞こえにくい入居者様には家族の声を代弁し、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においては、ガラス越しの面会や本人希望時には電話を取次ぎ、入居者様が不安や不穏を少しでも和らぐように支援している。	家族が事業所に来た際は必ずガラス越しの面会の場を設けて顔を見られるようにし、希望時に電話するなど家族との関係が途切れないようにしている。また、受診の際に家族と自宅に寄ったり、年賀状のやり取りがあったりもする。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士の関係を把握しており入居者様ひとり、ひとりの気持ちに寄り添って気持ちの安定の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の接触が少なく判断が難しい。 再入居時は入居者様とご家族の立場に立って相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や思いを傾聴し意向に添えるように努めている。 困難な場合など家族に協力をお願いして本人の意向に添える様に努めている。	日々の関わりの中で思いを汲みとり、アセスメントノートに記載し残している。アセスメントノートには、利用者から言われた言葉をそのまま記載し思いが伝わりやすくしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活歴を把握し、生活環境を整えその人らしい生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの身体状態を把握しその都度職員間で情報を共有、記録し身心の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態の観察を行い職員間で、報告、連絡、相談を行い、状態に応じた介護計画を作成している。	アセスメントノートにある思いを基に、面会時に家族の要望を聴き、主任会議の中でその情報をもとにし同一法人のクリニックの主治医やリハビリ、看介職スタッフと共にカンファレンスを行ない計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを作成し、特記事項やサービス過程を記録し職員間で共有している。又、重要項目や問題等、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設で老健と木戸クリニックがあり、入居者様の健康管理と治療、「家族への助言」、行事参加、床屋など柔軟にサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は、入居をしながら地域住民としてボランティアの受け入れ、地区の祭りに参加し協働していた。今後は周りの状況をみながら地域資源との協働に努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の担当医師が同一法人内のクリニックに在籍しておられる。入居時から月に一度受診し入居者様は納得の上、適切な医療支援を受けている。	同一法人内のクリニックの医師が引き続き主治医として関わっている。スタッフが外来に付き添い日常の状態を伝え症状に添った受診を可能にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々のかかわりのなかで入居者様の体調変化に早く気づき担当医師、看護師に報告、相談、協働している。 定期受診(4週間に1回)には体調記録紙と様子を伝える事で適切な看護をうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、できるだけ早期に事業所にある介護サマリーに情報記載後、入院先へ伝えている。又、入退院関係者との情報交換の関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所では重度化時の指針、方針があり入居契約時に説明している。重度化した場合早い段階で本人、家族と話し合いを行い担当医師の判断の下、併設老健の入所や病院への入院の支援をしている。	入居時に重度化した時の指針を説明し同意いただいている。看取りは行なっていないが、随時併設の介護老人保健施設や外部の病院と連携を取り、希望に沿うよう柔軟な対応を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、入居者様が急変や事故発生時は、事業所のマニュアルに沿って対応している。 マニュアルの徹底と見直しを随時行い職員がわかる場所に置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年はまだ避難訓練は行っていないが災害時は併設の老健の職員と協力して老健に避難する体制になっている。	法人本部の職員や併設の施設と協力して避難訓練を行なっている。地震や火災などその都度内容は変え、消防署からも定期的に立ち会いしてもらっている。ホームで備蓄品も準備されている。	法人全体としての対策だけにとどまらず、グループホーム独自でも事前に準備できる災害対策に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア時は人格を尊重し、人として尊厳を重んじ声掛け対応を心掛けている。また職員間で情報を共有し実践している。	トイレや入浴時などの声かけをする際は声の大きさやかけ方を工夫している。場合によっては声をかける職員を交代するなど、理念の人格を尊重することを意識した対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は話しやすい雰囲気、環境作りを考え、入居者様の思いや希望を自己決定できるように導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	平日午前中の予定は、受診及び入浴である。予定の無い入居者様は、自分のペースでゆったりと過ごしている。 午後のおやつ後は、同テーブルの入居者様同士で、漢字合わせゲームなどを楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の意向により併設施設の床屋利用を継続している。 その日の服は本人に選んでもらっている。 又、衣類は季節毎に、家族に連絡し職員が入れ替え後の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	午後入居者様が寛いでいるときに職員が「何食べたいですか？」と思いを聴き献立に取り入れている。食事に係る手伝いを、その時できる入居者様をお願いして一緒に行っている。	昼食と夕食は手作りで、利用者と職員と一緒に作っている。好みのものをいつでも食べられる環境にあり、また、地元で伝わる一品や旬のものを作ったりすることもあり、楽しみのひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、おいしく食べてもらえるよう、見守り介助に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状況を確認して口腔ケアの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者、ひとり、ひとりの排泄に合わせて、習慣を活かして支援を行っている。	トイレに通うことで紙パンツ使用ではなくなったり、居室からトイレに通いやすい動線にする工夫をしたり、なるべく自立となる支援を日頃より行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、昼、夕の排便を記録し、水分補給、食事、運動の状態を確認し個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。排泄を介護者に委ねることによって心理的負担にならないようにする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を確認し可能な姿勢、体位、時間を考えて週2回入浴している。難しい時は全身更衣して清潔保持に努めている。介助を行う前は必ず声掛けをしてリラックス出来る様に配慮している。	入浴予定は決まってはいるものの、都合に合わせて柔軟に入浴いただけるようになっている。毎年恒例となってきている、美肌効果があるという庭のいちじくの葉を入れたお風呂や、入浴剤を入れるなど、お風呂を楽しめる工夫に取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた、部屋作りの為、ベッドの高さの調節、動作しやすいような寝具の位置にする。転落防止の為ベッド柵を付ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の体調や薬品情報を職員で共通理解や把握をしながら服薬管理を行い、様子を観察し日々の生活を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者との繋がりを大切にしながらレク、ゲームを通じ一緒に楽しめる時間が有意義なものになるよう見守りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設での行事に参加したり、施設の周りを散歩したりして地域との交流を図っていたが新型コロナの影響でぬくもりの中庭に出るのにとどまっている。	中庭にはいちじくや枝垂れ桜が植えられ、庭に出るだけでも季節を感じることができ、日頃より好天時には散歩に出たりもする。家族と受診のあと自宅に寄ったり、食事されたりした方もおり、戸外に出かけられるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症対応型の為、現状ではお金の所有や使用は難しいが今後支援できるように職員一人ひとり努力していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話を取り次いでほしいと希望された時は電話を掛ける介助をし取り次いでいる。又、手紙、はがき、交換ノートのやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室等入居者がいる場所は常に過ごしやすい室温を保っている。最近は換気にも気を付けている。玄関やフロアには、季節に添ったタペストリーや花を飾っている。中庭には、あさがお、イチジク、桜等植えて楽しんでいただいている。	事務所のカウンターや表札、天井の梁などところどころ木が使われており、あたたかみを感じることができる。各ユニットの窓は日がさしこみ、渡り廊下からは枝垂れ桜を眺めたり、外に出たりもできる。のんびり過ごせるやわらかな共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、気の合った入居者様同士会話などが出来る様にと隣席にしたり、ソファなどが置かれていてプライバシーを保ちつつゆったりと過ごせる様に居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の好きなポスター、家族の写真などお気に入りの物やテレビ、ラジオなど使い慣れたものを置き安心して過ごせる、その人らしい居室になるよう支援している。ホールや居室から庭を眺める事ができ、季節を感じる事が出来る。	各居室には木のベッドが備え付けてあり、写真やカレンダーが貼ってあったり、それぞれの方が居心地良く過ごせるようカスタマイズできる。居室窓からも外を眺めることができ、季節を感じられるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の出来る事を職員が見極め環境設定している。居室の表札、風呂、便所の表示等目印を付けている。ホールに職員がいて、安全に配慮している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームぬくもり

作成日: 令和 4 年 11 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	運営推進会議の開催は昨年度から引き続きコロナウイルス感染拡大防止の為に開催を見合わせていた。開催月の報告資料は作成していたが射水市役所保険課への提供に留まっていた。	運営推進会議を再開して、事業所の状況、取り組み内容を伝え入居者様家族、参加者様に事業所の理解を深めて頂く。会議資料は請求書に同封する。	運営推進会議開催の知らせを参加者に面会時や電話等で伝える。広報の「あいの風たより」にぬくもりを載せて発信していく。	6ヶ月
2	35 (13)	法人全体での火災、水害、地震時の避難訓練計画書「BCPは作成中」がある。併設施設と合同で実施していたが、現在はコロナウイルス感染拡大防止の為に実施を見合わせていた。	事業所のできる、火災、水害、地震時の避難訓練を実施し可能であれば、合同で実施する。BCPに沿った避難訓練を実施する。	ぬくもり職員で昼夜時の火災、水害、地震時の役割分担を定める。「連絡・避難誘導・備蓄品他」職員は、その日の役割を毎月1日に確認して実施する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。